

研修だより

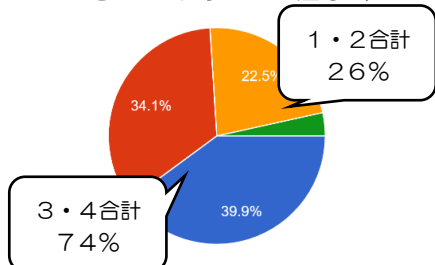
No.16

アンケート結果より、豊成小の子どもの傾向

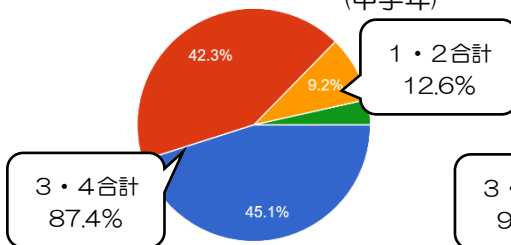
前期の終わりに、児童と先生方に協力していただいたアンケートから、豊成小の子ども達の学習に関する傾向を考えてみました。豊成小の子どもは、どの学年も学習することを楽しいと感じていたり、友達と協働的な学習を楽しんでいたりすることがわかりました。前向きな姿勢は大変立派なので、さらに学力を伸ばしていくために必要なことを考えていきたいと思います。

①自分の意見を伝えることが苦手？

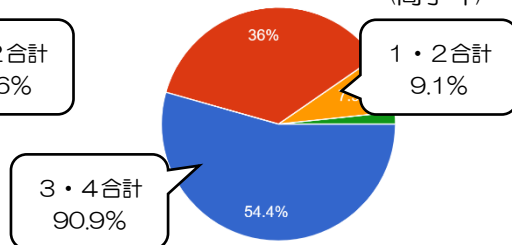
授業中、自分の考えを發表することができていますか？(低学年)



課題を解決するために、友達と意見を出し合うことができていますか？(中学年)



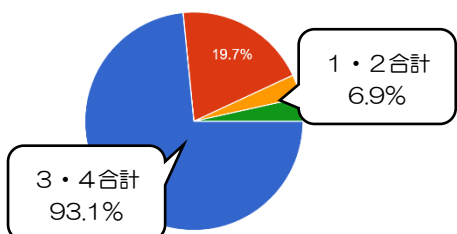
課題を解決するために、友達と意見を出し合うことができていますか？(高学年)



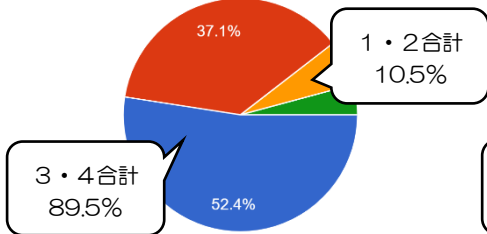
低学年は意見を發表すること、中学年、高学年は意見を出し合うことについての質問項目でしたが4が少ない項目となっていました。高学年の記述式アンケートの中にも「自分がみんなに説明するときに、分かりづらくなってしまわないか心配。」という声が上がっていました。発表や説明が上手な子どもはどうして上手なのか、ポイントを共有したり、発表のテンプレートを子どもに示したりするなど、子どもが安心して発表できるようにする手立てを講じることも必要かもしれません。ただ、学年が上がるにつれて、1・2の割合が減り、3・4の割合が増えていっていることから、先生方の指導や子どもの経験が積み重ねられていくことで改善されていると考えられるので、子どもに意見を發表させたり、みんなの前で自分の考えを伝えたりする経験を積ませることも大切です。

②わからない問題はあきらめがち？

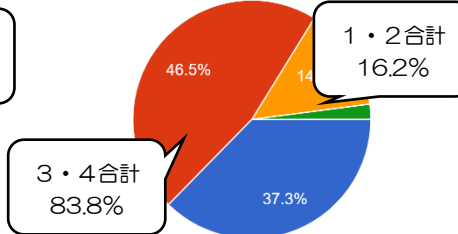
わからない問題は、最後まで諦めないで考えられていますか？(低学年)



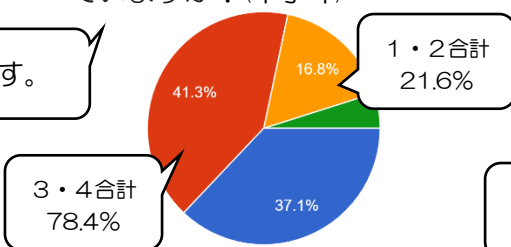
わからない問題があっても、ねばり強く考えることができていますか？(中学年)



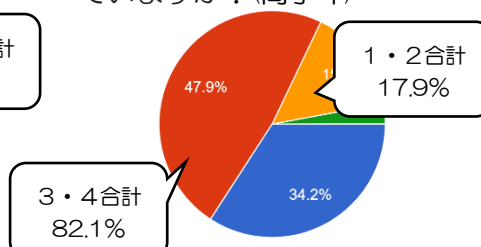
わからない問題があっても、ねばり強く考えることができていますか？(高学年)



失敗しても、原因を考えて次に生かそうとすることができていますか？(中学年)



失敗しても、原因を考えて次に生かそうとすることができていますか？(高学年)



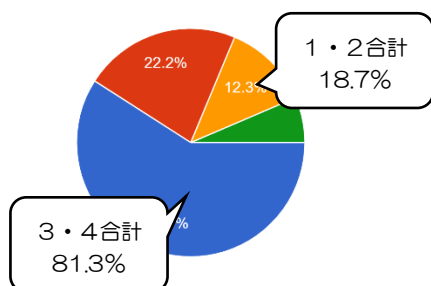
この質問は、低学年は未実施です。

「わからない問題に、粘り強く取り組むことができているかどうか。」という質問項目で、学年が上がるにつれて4の割合が減り、1・2の割合が増えていることがわかりました。学年が上がると問題も難しくなってしまうので、あきらめてしまうのかもしれませんが。自分だけでは難しい問題も友達と学び合うことによって解決までの道筋が見えたり、ヒントをもらえたりするかもしれませんので、豊成小の研究が役に立ってきそうですね。粘り強く学習に取り組む姿勢も評価し、褒めることも大切に出来るといいですね。

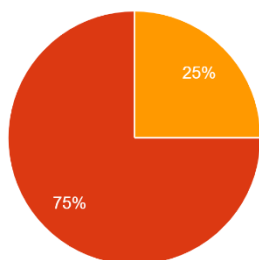
また、「失敗しても、原因を考えて次に生かそうとすることができていますか。」の質問項目では、中学年、高学年ともに全体の五分の一ほどの児童がうまくいかないことがあっても原因を考えず、できないまま終えているということがわかります。テストやプリントなどで誤答が多かった問題を全体で取り上げて改めて考えてみたり、授業の中でテストを解き直したりする時間を設けたりすることで「次に生かそうとする」習慣を身に付けることができるのではないのでしょうか。

③主体的に学習するとはなんだろう？

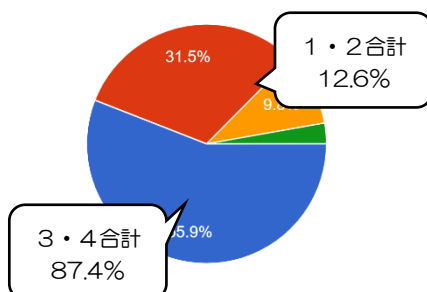
先生に教わるだけでなく、自分たちから進んで学ぶことができますか？(低学年)



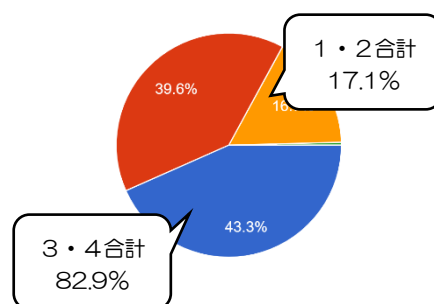
学級の子どもたちは、主体的に学習に取り組んでいますか？
(教職員)



先生に「教わる」のではなく、自分たちで「学ぶ」ことができますか？(中学年)



先生に「教わる」のではなく、自分たちで「学ぶ」ことができますか？(高学年)



「自分達から進んで学ぶことができているかどうか。」の質問項目では、どの学年でも3・4の割合が8割を超えているなど、進んで学んでいると考えている児童が多いと考えることができます。記述アンケートにも多数意見が出ていましたが、活動方法や携帯を選択することが学習意欲につながっていると考えられます。

ただ、4の割合が高くはないことや1・2を付けている子どもも2割程度いることから、自分達で学ぶということに自信がない子どもが多そうです。

また、教職員向けアンケートの「学級の子どもたちは、主体的に学習に取り組んでいますか。」の項目で4を付けた先生はいませんでした。子どもの考える「自ら学ぶこと」と先生が考える「主体的に学習に取り組むこと」に意識のずれがあるのかもしれませんが。授業の中で「目指す姿」「今日の学習のゴール」などを設定したり、一緒に考えたりすることで子どもと教員で「主体的に学習すること」のイメージを共有することが有効な手立てだと考えられます。子どもと目指す授業などの話をする機会を設けて、一緒に進んでいけるといいですね。

/ ()～ / ()の期間で、子どもと教職員向けにアンケートを実施する予定です。前期から後期にかけて、子ども達がどのように変わったのかが楽しみです。お忙しいと思いますが、ご協力よろしくお願いします！

最後まで読んでいただきありがとうございました！